

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和2年6月25日(2020.6.25)

【公表番号】特表2019-519519(P2019-519519A)

【公表日】令和1年7月11日(2019.7.11)

【年通号数】公開・登録公報2019-027

【出願番号】特願2018-560887(P2018-560887)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/4439 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/4439

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/04

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】令和2年5月14日(2020.5.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

切除不能または転移性のB R A F 6 0 0 突然変異陽性メラノーマを有する対象を処置するための、B V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩を含む組成物であって、前記組成物が、6 0 0 m g のB V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩の用量でB I Dで前記対象に投与されることを特徴とする、組成物。

【請求項2】

前記突然変異がB R A F V 6 0 0 E 突然変異である、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

哺乳動物が、ヒト、靈長類、畜産動物および家畜からなる群から選択される、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

哺乳動物がヒトである、請求項1に記載の組成物。

【請求項5】

前記メラノーマがM A P K 活性を有する、請求項1に記載の組成物。

【請求項6】

切除不能または転移性のB R A F 6 0 0 突然変異陽性メラノーマを有する対象を処置するための組成物であって、B V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩の6 0 0 m g 、および任意選択で薬学的に許容される担体、アジュバントまたはビヒクルを含む、組成物。

【請求項7】

前記対象が哺乳動物である、請求項6に記載の組成物。

【請求項8】

哺乳動物が、ヒト、靈長類、畜産動物および家畜からなる群から選択される、請求項6

に記載の組成物。

【請求項 9】

哺乳動物がヒトである、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 10】

前記メラノーマがM A P K 活性を有する、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記突然変異がB R A F ^{V 6 0 0 E} 突然変異である、請求項 6 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本発明の別の実施形態は、切除不能または転移性のB R A F 6 0 0 突然変異陽性メラノーマを有する対象を処置するための組成物であって、B V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩の6 0 0 m g 、および任意選択で薬学的に許容される担体、アジュバントまたはビヒクルを含む組成物である。

本発明は、例えば以下を提供する。

(項目 1)

切除不能または転移性のB R A F 6 0 0 突然変異陽性メラノーマを有する対象を処置する方法であって、B V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩を6 0 0 m g B I D で前記対象に投与することを含む、方法。

(項目 2)

前記突然変異がB R A F ^{V 6 0 0 E} 突然変異である、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

哺乳動物が、ヒト、靈長類、畜産動物および家畜からなる群から選択される、項目 1 に記載の方法。

(項目 4)

哺乳動物がヒトである、項目 1 に記載の方法。

(項目 5)

前記メラノーマがM A P K 活性を有する、項目 1 に記載の方法。

(項目 6)

切除不能または転移性のB R A F 6 0 0 突然変異陽性メラノーマを有する対象を処置するための組成物であって、B V D - 5 2 3 または薬学的に許容されるその塩の6 0 0 m g 、および任意選択で薬学的に許容される担体、アジュバントまたはビヒクルを含む、組成物。

(項目 7)

前記対象が哺乳動物である、項目 6 に記載の組成物。

(項目 8)

哺乳動物が、ヒト、靈長類、畜産動物および家畜からなる群から選択される、項目 6 に記載の組成物。

(項目 9)

哺乳動物がヒトである、項目 6 に記載の組成物。

(項目 10)

前記メラノーマがM A P K 活性を有する、項目 6 に記載の組成物。

(項目 11)

前記突然変異がB R A F ^{V 6 0 0 E} 突然変異である、項目 6 に記載の組成物。